



2019年4月3日

各 位

会社名 株式会社イントランス
代表者名 代表取締役社長 濱谷 雄二
(コード番号 3237 東証マザーズ)
問合せ先 管理本部 総務課課長 安藤 智隆
(TEL 03-6803-8100)

フード関連施設（横丁事業）の開発開始 及び株式会社アスラボとの業務提携に関するお知らせ

この度、当社は料理人の起業支援・経営支援サービスを手掛ける株式会社アスラボ（本社：東京都港区、代表取締役社長：片岡 義隆、以下「アスラボ」）との間で、当社が推進する『Inbound×Real Estate×Tourism』関連サービスの1つであるフード関連施設（横丁事業）の開発を共同で全国展開することを目的とする業務提携契約を締結すること、及び横丁事業の第1弾となる施設開発を北海道旭川市で行う事となりましたので、お知らせいたします。

記

当社では、これまでの不動産開発・再生事業を柱に、新たな事業領域として、インバウンドをターゲットに差別化された宿泊施設の取得・開発、及び「食」「体験」といった観光周辺サービスを提供する事業戦略を展開しております。

一方、スタートアップ企業の支援を通じて、日本経済の再興を図ることを目的とするアクセラレートプログラム『TAP（東急アクセラレートプログラム）』において最優秀賞を受賞したベンチャー企業でもあるアスラボは、地方の魅力ある食材を使い、多様なジャンルの店舗が集まった飲食施設である横丁を現時点で国内4ヶ所（徳島、大分、宮崎、鹿児島）で運営しており、2019年度では国内15ヶ所でのオープンが予定されております。また、横丁を通じて料理人が成長・成功できるITプラットフォームを提供するなど、起業支援と地域の食文化の発信に取り組んでおります。

近年の日本の外食業界では、新宿駅西口の「思い出横丁」をはじめとした『横丁』が大きなブームとなっています。当社はこの注目されている『横丁』を通じて、食材・人材・場など地域に眠る資源を掘り起こし、日本人観光客のみならずインバウンドもターゲットに日本食文化の可能性と多様性を体験する機会を提供することで、地産地消ひいては地域活性化に繋がる可能性が多分にあると考えております。

このような背景から、北海道のJR旭川駅前において、当社とアスラボによる共同開発第1弾となる横丁施設「旭川横丁（仮称）」の開発を推進することとなりました。旭川市は札幌市に次ぐ道内2位の人口（約33万人）を要する地方中核都市であり、旭川空港は国際線拡充と増加する訪日外国人受入強化を目的として、昨年11月には国際線専用ターミナルが開業するなど、外国人観光客の誘致に注力するなど、観光拠点としても大変有用な地域であることから、横丁に簡易宿泊施設を併設した複合施設の開発を推進してまいります。

なお、本件による平成31年3月期連結業績予想に変更はありません。

(ご参考)

①取得不動産の概要

所在地：北海道旭川市
敷地面積：535.52㎡(162.00坪)
延床面積：1,068.52㎡(323.23坪)
契約締結日：2019年4月3日
決済予定日：2019年4月17日まで

※取得先につきましては、北海道旭川市の個人となります。取得価格につきましては、当該不動産売買契約における取得先との守秘義務により、公表を控えさせていただきます。また、当社と取得先との間には、記載すべき資本関係・人的関係・取引関係はなく、属性についても問題はありません。

※上記物件の取得価格は平成30年3月期における連結純資産の30%に満たない額であります。

②株式会社アスラボの概要

名称：株式会社アスラボ
本店所在地：東京都港区南青山1-15-3
代表者名：代表取締役社長 片岡 義隆
設立年月：2010年6月
資本金：257,988,610円(資本準備金含む)
事業内容：FOOD事業、メディア事業

③アスラボが開発した横丁例



(阿波横丁)



(天文館かごしま横丁)



(おおいた元気横丁)